

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2022/23年度

生産量 前年度比 前月比

- ・インド、EU、中国等で下方修正も、ロシア、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み

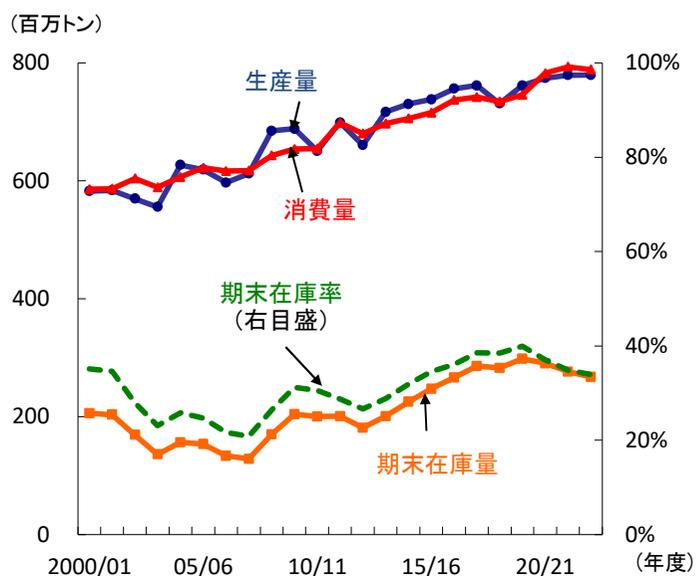
消費量 前年度比 前月比

- ・EU等で下方修正も、ロシア、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・EU等で下方修正も、ロシア、豪州、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



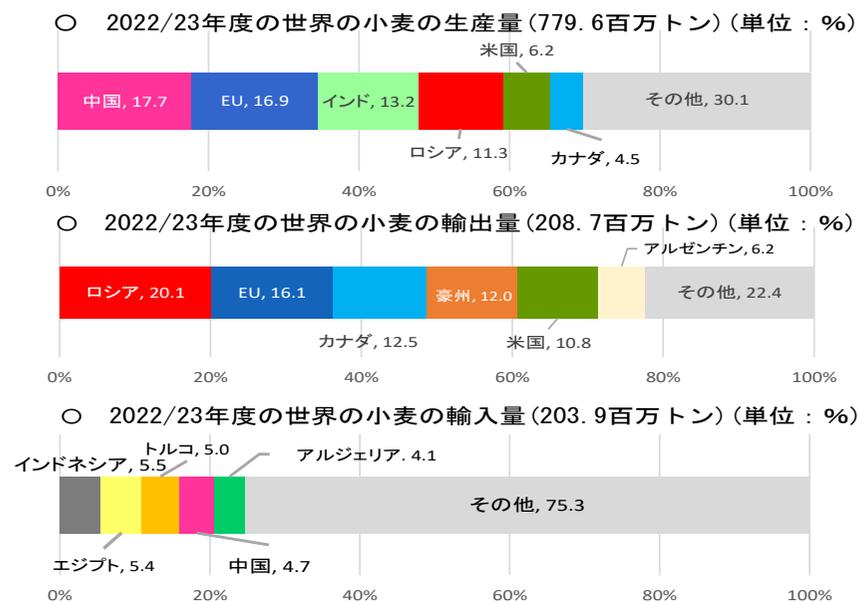
資料:USDA「PS&D」(2022. 8. 12) をもとに農林水産省にて作成

◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	774.3	779.2	779.6	8.0	0.0
消費量	782.2	793.2	788.6	4.4	▲ 0.6
うち飼料用	158.0	159.9	152.8	1.5	▲ 4.5
輸出量	203.4	202.7	208.7	3.2	3.0
輸入量	195.4	197.8	203.9	1.1	3.1
期末在庫量	290.3	276.4	267.3	▲ 0.2	▲ 3.3
期末在庫率	37.1%	34.8%	33.9%	▲ 0.2	▲ 0.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2022)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 生産量は冬小麦が減少するものの春小麦が回復し前年度を上回る

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測に比べ0.1百万トン上方修正され、前年度に比べると8.3%増の48.5百万トンの見込み。

作期別には、前月に比べ、冬小麦、デュラム小麦が下方修正されたものの、春小麦が上方修正。

また、前年度に比べ、冬小麦は干ばつの影響による収穫面積と単収の減少から32.6百万トン(前年度34.8百万トン)と6.2%減少。一方、春小麦及びデュラム小麦は、収穫面積と単収の増加から前年度の干ばつによる減産から回復し、それぞれ13.9百万トン(同9.0百万トン、前年度対比54.5%増)、2.0百万トン(同1.0百万トン、同97.4%増)の見込み。

冬小麦の州別の生産状況は、ハード・レッド・ウインター(HRW)の産地である中央プレーンズのカンザス州、オクラホマ州では干ばつの影響で単収が引き下げられ、それぞれの生産量が前年度を28.5%、36.6%下回った。一方、ホワイト小麦(WW)の産地である北部のワシントン州、オレゴン州等では前年度からの干ばつが緩和し単収が引き上げられ、生産量がそれぞれ同81.6%、51.0%上回った。ソフト・レッド・ウインター(SRW)の産地である米国東部の単収は史上最高となった前年度には及ばないものの、史上2番目の高単収となっている。

「Crop Progress」(2022.8.22)によれば、8月21日時点の冬小麦の収穫進捗率は95%と、前年度同期(99%)及び5年平均(97%)を下回った。州別には、HRWの主産地である中央プレーンズのカンザス州、オクラホマ州等で収穫が終了、同北部のモンタナ州等では収穫が進展している。

また、春小麦の収穫進捗率は33%と、前年度同期(74%)及び5年平均(54%)を下回った。春小麦の作柄評価(良からやや良の割合)は64%(前週64%)と、干ばつの影響を受けた前年度同期(11%)を53ポイント上回っている。2022/23年度の春小麦は、プレーンズ北部のミネソタ州、ノースダコタ州で降雨過多により播種が遅れたものの、小麦価格が堅調なことから6月半ばから急速に播種が進んだ。その後、暖かい天候により生育の遅れが幾分解消されたものの、依然として遅れている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は主要輸出国の中で輸出価格が比較的に低いこと、世界の強い需要見込みから、前月予測から0.7百万トン上方修正され22.5百万トンとなる見込み。

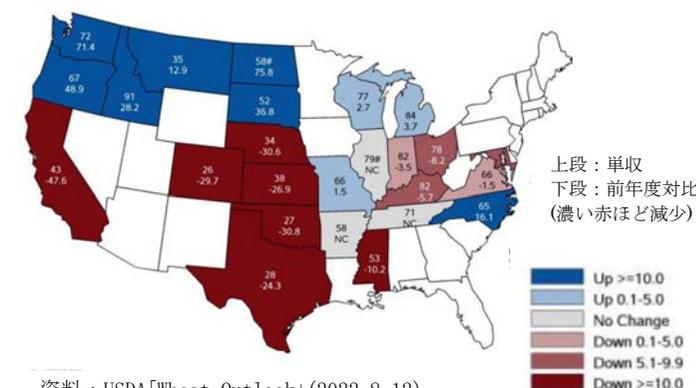
小麦一米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年6月～23年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.8	44.8	48.5	0.1	8.3
消費量	30.4	30.6	30.4	0.2	▲0.7
うち飼料用	2.5	2.6	2.2	-	▲15.2
輸出量	27.1	21.8	22.5	0.7	3.1
輸入量	2.7	2.6	3.0	-	15.4
期末在庫量	23.0	18.0	16.6	▲0.8	▲7.6
期末在庫率	40.0%	34.3%	31.4%	▲2.0	▲2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.89	15.04	15.19	▲0.04	1.0
単収(t/ha)	3.34	2.98	3.20	0.02	7.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 August 2022)

図 米国产冬小麦の州別の単収(bu/acre)



資料: USDA「Wheat Outlook」(2022. 8. 12)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量 (輸出検証高)

2022年7月			2022年1月～7月		
国名	検証高(万トン)	シェア(%)	国名	累積検証高(万トン)	シェア(%)
メキシコ	47.1	24.9	メキシコ	234.8	20.6
韓国	16.3	8.6	フィリピン	140.2	12.3
フィリピン	14.6	7.7	日本	125.1	11.0
イエメン	13.5	7.2	ナイジェリア	72.4	6.4
日本	11.7	6.2	韓国	67.8	6.0
その他	69.4	36.7	その他	497.8	43.7
合計	189.1	100	合計	1,138.0	100

注1. 7月の輸出検証高は、7月7、14、21、28日、8月4日の合計値

注2. 2022年累積輸出検証高は、2022年1月6日～8月4日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2022年8月12日)より作成。

< カナダ > 生産量は回復し、前年度比 59.4%増、過去5年平均比 13.3%増

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.8.22)によれば、2022/23年度の小麦全体の生産量は、前月予測から0.8百万トン上方修正され、34.5百万トンの見込み。カナダ西部の干ばつにより減少した2021/22年度に比べ、播種面積と単収の引き上げから、59.4%増加する見込み(過去5年平均対比 13.3%増)。

このうち、普通小麦は、前月予測からの変更はなく史上第3番目の28.2百万トン(前年度対比 48.6%増、過去5年平均対比 11.0%増)。デュラム小麦は、単収の引き上げから、前月予測から0.8百万トン上方修正され6.3百万トン(同 136.1%増、同 25.4%増)。平原三州のサスカチュワン州やアルバータ州では、良好な天候から単収は過去5年平均を上回っている。

USDAによれば、サスカチュワン州西部とアルバータ州南部では6月と7月の降雨や、温暖な気温によって生長が急速に進み、春小麦は成熟期の初期段階となっており、作柄は、2020/21年と同じく平均以上となる見込み。

各州政府報告によれば、サスカチュワン州では8月8日時点の収穫進捗率は冬小麦が7%。春小麦とデュラム小麦は収穫が開始されていない。マニトバ州では、東部地域で冬小麦の収穫が開始、一方で、春小麦は開花が完了した。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2022/23年度の小麦全体の輸出量は、前月予測から0.6百万トン上方修正され、前年度に比べ53.7%増加の23.0百万トン。そのうち、普通小麦は前月予測からの変更はなく18.0百万トンと、生産量の回復と世界の強い需要から、前年度に比べ46.3%増加の見込み。デュラム小麦は、前月予測から0.6百万トン上方修正され5.0百万トンと、生産量の回復と高温・乾燥で作物が影響を受けた欧州や北アフリカ等の需要から、前年度に比べ87.9%増加。

USDAによれば、カナダ産小麦の輸出価格は米国や豪州に比べ安価であることから、カナダは主要輸出先である南北アメリカ大陸、アジアの市場を回復する可能性がある。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2022年6月の輸出量は普通小麦が80.4万トン、デュラム小麦は18.5万トンの計98.8万トンで、輸出先国は、普通小麦はコロンビア(16.3%)、日本(11.9%)、ペルー(11.4%)、デュラム小麦は、モロッコ(44.3%)、米国(31.4%)、イタリア(12.4%)の順。2021/22年度のカナダ産小麦輸出のペースは前年より遅くなっている。

小麦－カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年8月～23年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	35.2	21.7	35.0 (34.5)	1.0	61.7
消費量	9.1	9.5	9.1 (9.4)	-	▲ 4.2
うち飼料用	4.2	4.5	4.0 (5.0)	-	▲ 11.1
輸 出 量	26.4	15.0	26.0 (23.0)	1.0	73.3
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	-
期末在庫量	5.7	3.4	3.9 (5.9)	-	14.6
期末在庫率	15.9%	14.0%	11.2% (18.2%)	▲ 0.3	▲ 2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.02	9.25	10.00 (10.14)	-	8.1
単収(t/ha)	3.51	2.34	3.50 (3.40)	0.10	49.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 August 2022)

表 カナダ産小麦の輸出先国、輸出量

<普通小麦>

2022年6月			2021年8月～2022年6月		
国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
コロンビア	13.1	16.3	日本	138.1	13.4
日本	9.6	11.9	インドネシア	108.0	10.5
ペルー	9.2	11.4	コロンビア	89.4	8.7
バングラデシュ	6.5	8.1	ペルー	77.6	7.5
ベネズエラ	6.4	8.0	中国	69.4	6.7
その他	35.6	44.3	その他	549.4	53.2
計	80.4	100.0	計	1031.9	100.0

<デュラム小麦>

2022年6月			2021年8月～2022年6月		
国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
モロッコ	8.2	44.3	モロッコ	60.6	26.0
米国	5.8	31.4	アルジェリア	44.5	19.1
イタリア	2.3	12.4	米国	35.1	15.1
コロンビア	0.7	3.8	イタリア	31.9	13.7
日本	0.7	3.8	日本	16.1	6.9
その他	0.8	4.3	その他	44.7	19.2
計	18.5	100.0	計	232.9	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2: 普通小麦の品種はNO.1-3Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter, デュラムはCanada Western Amber Durum Other
資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

＜ 豪州 ＞ 生産量は前月から3.0百万トン上方修正され33.0百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の実生産量は前月予測に比べ3.0百万トン上方修正され、33.0百万トンの見込み。史上最高となった前年度(36.3百万トン)に比べ9.1%減少するものの、過去5年平均を36.1%上回る。

7月は、例年に比べ乾燥していたが、この冬の時期の土壌水分はおおよそ保たれた。8月には降雨に恵まれ、深層の土壌水分は多くの主要生産地で「平均」あるいは「平均以」となっている。生育状況は、特に西オーストラリア州、ビクトリア州、およびニューサウスウェールズ州南部の小麦生産地帯で、良好となっている。なお、小麦の開花は8月の半ばに始まり、9月半ばには最盛期を迎える。

GIWA(西オーストラリア州穀物団体)(2022.8.12)によれば、2022/23年度のウェスタン・オーストラリア州(WA州)の実生産量は10.3百万トン(前月10.2百万トン、前年度12.9百万トン)の見込み。生育状況は、暖かい気候により作物の成長が例年よりも進んでいる。このため、霜害のリスクがあるものの、作物の成熟が早まり春に生じる高温による障害の可能性は減少すると見られる。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2022.6.7)によれば、2022/23年度の実生産量は、10.3百万トン(同20%減)。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の実輸出量は前月予測から1.0百万トン上方修正され、25.0百万トンの見込み。前年度(27.5百万トン)に比べ9.1%減少するものの、前年度に次ぐ史上第2番目の輸出量となる。

なお、8月10日時点の豪州の輸出価格(FOB)は、良好な天候で生産量が10年平均を上回る見込みから、7月8日時点の403ドル/トンから390ドル/トンに低下した。

豪州統計局によれば、2022年6月の輸出量は2.8百万トンと、前月(2.4百万トン)に比べ増加。また、2022年1月から6月までの輸出量は15.6百万トン。輸出先国は、中国(21.3%)、インドネシア(12.0%)、フィリピン(10.8%)、ベトナム(10.2%)の順。豪州は、輸出量計の約54%をこれらのアジア諸国に輸出しているほか、イエメン(4.0%)、スーダン(3.2%)等の中東、アフリカ諸国にも輸出している。なお、中国はこれまで主要な輸出先国ではなかったが、輸出量が増加している。

また、前年度の北米産小麦の減産やカナダ産菜種の不作により、豪州産穀物等の需要が高まっており、穀物等輸出のサプライチェーンの状況や豪州産穀物等の作柄について引き続き注視が必要。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年10月～23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	31.9	36.3	33.0 (30.6)	3.0	▲ 9.1
消費量	8.0	8.5	8.6 (8.4)	1.0	0.6
うち飼料用	4.5	5.0	5.0 (4.6)	1.0	-
輸出量	23.9	27.5	25.0 (24.7)	1.0	▲ 9.1
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.4)	-	-
期末在庫量	3.0	3.5	3.1 (3.3)	▲ 0.4	▲ 10.1
期末在庫率	9.3%	9.6%	9.3% (10.0%)	▲ 1.8	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.64	13.00	13.20 (13.2)	-	1.5
単収(t/ha)	2.52	2.79	2.50 (2.32)	0.23	▲ 10.4

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022)

写真 サウスオーストラリア州の小麦圃場



この圃場では、今年は例年になく降雨量が少なく、乾期播種を余儀なくされた。この圃場の生産者は5月中旬に播種を実施。小麦は、5月下旬に発芽した。この地域では、翌週の7月31日以降でまとまった降雨が予測されており、生産量は、例年の平均か、それ以上になると見込まれている。(2022.7.29)

表 豪州産小麦の輸出先国別輸出量

2022年6月			2022年1月～6月		
国名	輸出量(万トン)	シェア(%)	国名	累積輸出量(万トン)	シェア(%)
中国	71.1	29.4	中国	332.3	21.3
インドネシア	31.8	13.2	インドネシア	188.1	12.0
ベトナム	22.4	9.3	フィリピン	168.5	10.8
フィリピン	20.0	8.3	ベトナム	159.3	10.2
韓国	14.5	6.0	韓国	101.7	6.5
その他	120.2	49.8	その他	611.5	39.2
合計	280.0	115.9	合計	1,561.4	100.0

資料:豪州統計局のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ EU27+英国 ＞EU27の生産量は前月予測から1.2百万トン下方修正

【生育・生産状況】欧州委員会(2022.7.28)によれば、EU27の2022/23年度の生産量は、前月予測に比べ1.2百万トン下方修正され、前年度に比べ6.9%減少の132.1百万トンの見込み。

そのうち、普通小麦の生産量は、ブルガリア等で上方修正されたものの、フランス、スペイン、ドイツ等で下方修正されたため、前月予測に比べ0.1百万トン下方修正の124.9百万トン。デュラム小麦は、フランス等で下方修正されたことから、同0.1百万トン下方修正の7.2百万トン。

また、USDAによれば、英国の生産量は前月予測からの変更はなく、14.6百万トン。

USDAによれば、7月はスペイン、フランス、イタリア等で高温・乾燥状態が継続したため、EU27の生産量予測が下方修正された(前月に比べ2.0百万トン下方修正の132.1百万トン)。また、この高温の影響で平年より1～2週間早く生育が進み、ヨーロッパの多くの国で収穫が終了した。

フランスアグリメール(2022.8.8)によれば、フランス産普通小麦、デュラム小麦とも前年度に比べ早く収穫が終了した。このため、乾燥天候の影響はある程度免れたと見られている。

また、フランス産普通小麦の品質は、サンプル対象予定数量の58%に当たる検査結果では、タンパク質含有量が11%～11.5%のものが多く、12%以上は20%に留まっている(前年度はサンプル全体の43%がタンパク質含有量12%以上)。一方、容積重は過去5年平均並で、格付けはA1:12%(5年平均38%) A2:40%(同29%) A3:26%(同29%) A4:22%(4)と、最下位A4の比率が多い。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度のEU27の消費量は、国内向け供給量が減少するため、飼料用等消費が前月に比べ0.5百万トン下方修正され107.0百万トンとなる見込み。

また、輸出量は、生産量の引き下げから前月予測から2.0百万トン下方修正され33.5百万トンとなるものの、前年度に比べ5.5%増加する見込み。8月10日現在の輸出価格(FOB)は、ユーロ安とウクライナからの輸出再開から352ドル/トンと、前月から5ドル/トン低下した。

欧州委員会によれば、5月の輸出量は、普通小麦が2.1百万トン(過去5年平均1.8百万トン)、デュラム小麦が0.1百万トン(同0.1百万トン)。輸出先国は、普通小麦がアルジェリア(33.1%)、エジプト(13.9%)、モロッコ(11.4%)、デュラム小麦がチュニジア(79.5%)、コートジボワール(5.4%)、マリ(3.6%)の順であり、ともにアフリカ諸国が中心となっている。

USDAによれば、EU27ヶ国の輸入量は前月予測からの変更はなく、5.5百万トンの見込み。

小麦－EU27+英国 (冬小麦を主に栽培) (単位:百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.4	152.3	146.7 (146.9)	▲2.0	▲3.7
消費量	118.2	124.2	122.6 (118.6)	▲0.5	▲1.2
うち飼料用	48.5	52.9	50.6 (45.6)	▲0.5	▲4.3
輸出量	30.2	32.6	34.5 (6.9)	▲2.0	5.9
輸入量	8.6	7.2	7.5 (40.2)	-	4.2
期末在庫量	12.1	14.9	12.0 (12.9)	▲0.7	▲19.5
期末在庫率	8.2%	9.5%	7.6% (10.3%)	▲0.1	▲1.9

(参考)

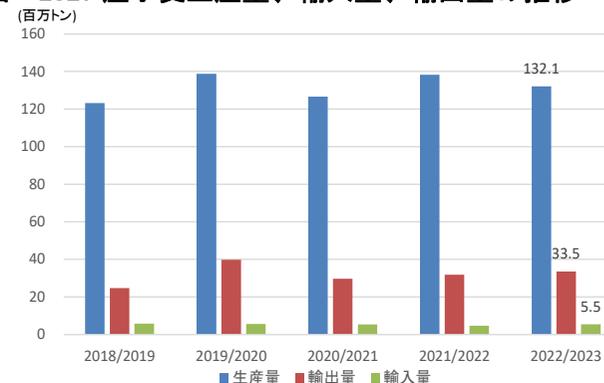
収穫面積(百万ha)	22.97	26.04	25.80 (25.64)	▲0.10	▲0.9
単収(t/ha)	5.94	5.85	5.69 (5.73)	▲0.06	▲2.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)

IGC「Grain Market Report」(21 July 2022)

表内及び()内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

図 EU27産小麦生産量、輸入量、輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2022.8.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

表 EU27の普通小麦、デュラム小麦の輸出先国別輸出量

普通小麦			デュラム小麦		
2022年5月			2022年5月		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
アルジェリア	69.3	33.1	チュニジア	8.2	79.5
エジプト	29.2	13.9	コートジボワール	0.6	5.4
モロッコ	24.0	11.4	マリ	0.4	3.6
ナイジェリア	23.5	11.2	サウジアラビア	0.3	2.9
チュニジア	8.2	3.9	アルバニア	0.2	1.6
イラン	6.6	3.2	スイス	0.2	1.5
その他	48.7	23.3	その他	0.6	5.5
計	209.5	100	計	10.3	100.0

EC(欧州委員会)「Cereals exports and imports」(2022.7.22)をもとに農林水産省で作成。

< 中国 > 冬小麦は収穫が終了。品質は良好。

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.8.5)によれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ1.1%増加の138.4百万トンの見込み。作期別には、冬小麦は前月予測からの変更はなく、131.9百万トン(対前年度0.4%増)、春小麦も前月からの変更はなく6.5百万トン(同17.7%増)の見込み。

中国全土の冬小麦の収穫は終了しており、冬小麦の品質は、容積重等で分類された中国国家標準の1~2級に格付けされた割合が前年度に比べ大幅に増加しており良好である。一方、USDAによれば、登熟期や収穫期の降雨で、タンパク含有量は低下し、砕粒が多くなると見られている。

一方、春小麦は、中国中央气象台(2022.8.8)によれば、新疆地区で乳熟期、内モンゴル地区で開花期から乳熟期、甘粛地域では開花期から乳熟期に入っている。

USDAによれば、前年秋の洪水で冬小麦の播種が遅れ、播種面積が減少したものの、生育が進むとともに主要産地の天候が回復し、2022年4月と5月には良好な天候と土壌水分に恵まれ、順調に登熟と成熟が進んだ。また、冬小麦の播種面積は減少したものの、春小麦の播種面積が増加した。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、輸入量は前月からの変更はなく、前年度(9.6百万トン)から18.4%減少の7.8百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2022年6月の輸入量は、前年度同期(75.2万トン)を32.1%下回る51.0万トン。また、2022年1月~6月は、490.7万トンで、同期間中の輸入先国は、豪州が大部を占め、前年同期のシェアが28.1%の米国の輸入実績はほぼない。

国家糧食和物資儲備局(2022.8.11)によれば、冬小麦の政府による主産地での買付量累計は、8月5日現在、44.8百万トンと前年度同期に比べ41万トンの増加である。

なお、USDAによれば、期末在庫量は前月予測から2.8百万トン上方修正され史上最高に近い144.4百万トンと、ほぼ年間の需要量に相当する量になると見込まれる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年6月号」によれば、本年度の冬小麦は豊作で品質が良く、市場への供給見通しは良好であり、市場への出荷量も徐々に増加している。一方、小麦粉消費が依然として低迷していることを受け、小麦粉加工業者の稼働率が低く、一部業者は仕入れ価格を下げたため、6月の国内小麦価格は小幅に下落した。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月~23年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	137.0	138.0 (135.0)	3.0	0.8
消費量	150.0	148.0	144.0 (141.0)	-	▲ 2.7
うち飼料用	40.0	35.0	30.0 (26.5)	-	▲ 14.3
輸 出 量	0.8	0.9	0.9 (1.1)	-	2.3
輸 入 量	10.6	9.6	9.5 (9.4)	-	▲ 0.7
期末在庫量	144.1	141.8	144.4 (135.5)	2.8	1.8
期末在庫率	95.6%	95.2%	99.6% (95.4%)	2.0	4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.38	23.57	23.60 (23.5)	0.20	0.1
単収(t/ha)	5.74	5.81	5.85 (5.74)	0.08	0.7

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022)

表 中国産小麦の国家標準表

等級	容積重(g/L)	不完全粒/%	不純物/%		水分/%	色、気味
			総量	そのうち、ミネラル		
1	≥790	≤6.0	≤1.0	≤0.5	≤12.5	正常
2	≥770					
3	≥750					
4	≥730					
5	≥710					
等級外	<710	-				

資料:中国国家標準化委員会

表 中国の小麦輸入先国

(輸出量:万トン、シェア%)

2022年6月			2022年1月~2022年6月			2021年1月~2021年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
オーストラリア	41.7	81.7	オーストラリア	298.4	60.8	オーストラリア	273.4	28.1
カナダ	9.1	17.8	フランス	144.5	29.5	米国	272.6	28.1
カザフスタン	0.3	0.5	カナダ	45.9	9.4	カナダ	254.0	26.1
-	-	-	カザフスタン	1.5	0.3	フランス	141.6	14.6
-	-	-	ロシア	0.2	0.0	カザフスタン	18.7	1.9
-	-	-	米国	0.0	0.0	リトアニア	6.6	0.7
その他	-	-	その他	0.0	0.0	その他	2.9	0.3
計	51.0	100	計	490.7	100	計	971.8	100

資料:中国海関統計(2022.7.20)をもとに農林水産省で作成資料

< ロシア > 生産量は前月から6.5百万トン上方修正で史上最高の88.0百万トン

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測から6.5百万トン上方修正され、88.0百万トンと前年度に比べ17.1%増加し史上最高となる見込み。

作期別の生産量は、冬小麦、春小麦とともに収穫面積と単収が引き上げられたことから、それぞれ、前月予測から5.5百万トン上方修正され65.0百万トン(前年度52.2百万トン)、1.0百万トン上方修正され23.0百万トン(同23.0百万トン)となる見込み。前年度に比べ、冬小麦は冬期の枯死も少なく生育状況が良好であったため24.5%増加、春小麦も0.2%増加した。

冬小麦の収穫は進展しており、冬小麦全体の18%を生産する主要生産地のクラスノダール地方では、7月下旬で78%の収穫進捗率となっている。また、同地域の単収は史上最高と見込まれている。

一方、春小麦は、シベリア連邦管区で7月を通じて降水量が平年を下回ったものの、中央、ウラル、沿ボルガ連邦管区で良好な生育条件となった。春小麦の収穫は8月下旬に開始される。

ロシア農業省によれば、冬小麦の収穫は南部のクラスノダール地方等から開始され、8月12日時点で、収穫面積は14.5百万ヘクタール、収穫進捗率は49.3%となり、収穫量は64.1百万トン(前年度同時期12.6%増)である。また、単収は4.42トン/ヘクタールで前年度同時期の3.30トン/ヘクタールを上回っている。ロシア穀物同盟によれば、降雨過多による被害粒の発生等の影響で、品質調整後の収穫量は大きく減る可能性がある。また、品質についても、降水量が多いため、前年度82%が食用グレードであったが、本年度は60%程度になる可能性もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、生産量が引き上げられたことから、前月予測に比べ2.0百万トン上方修正され、前年度に比べ27.3%増加の42.0百万トンの見込み。

ロシア穀物同盟によれば、7月の小麦輸出量は、前年度同月比10.5%減の280.4万トン。また、前年度同月の輸出先国数は41ヶ国であったものの、ナイジェリア、モザンビーク等のアフリカ諸国への輸出がなく、17ヶ国に減少した。現地情報会社によれば、7月の輸出先国は、イラン(20.7%)、トルコ(19.7%)、サウジアラビア(9.9%)の順で、中東諸国向けが多い。

ロシア産小麦は、輸出関税が賦課されているためコストが高く、ウクライナ産に比べ価格競争力が低い。そのため、ウクライナからの海上輸送が定着すれば、輸出価格を下げざるを得ないと見られている。なお、現地情報会社によれば、ロシアは可変式輸出関税廃止について検討していない模様。

小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	85.4	75.2	88.0 (85.2)	6.5	17.1	
消費量	42.5	41.8	44.0 (44.4)	1.8	5.4	
うち飼料用	19.0	18.5	20.0 (19.5)	1.0	8.1	
輸 出 量	39.1	33.0	42.0 (37.6)	2.0	27.3	
輸 入 量	0.4	0.3	0.3 (0.2)	-	-	
期末在庫量	11.4	12.1	14.4 (14.6)	2.8	19.0	
期末在庫率	13.9%	16.2%	16.7% (17.8%)	2.6	0.6	

(参考)

収穫面積(百万ha)	28.68	27.63	28.70 (28.2)	0.90	3.9
単収(t/ha)	2.98	2.72	3.07 (3.02)	0.14	12.9

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 August 2022)

IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022)

図:ロシア産小麦の生産量、収穫面積、単収の推移



資料:USDA「PS&D」(2022.8.12)をもとに農林水産省で作成

図:ロシア産小麦の輸出先国、輸出量

(輸出量:百万トン、シェア%)

国 名	2019/20年度 (2019年7月～2020年6月)		2020/21年度 (2020年7月～2021年6月)		2021/22年度 (2021年7月～2022年6月)			
	輸出量	シェア	輸出量	シェア	輸出量	シェア		
トルコ	791.3	28.6	エジプト	793.5	20.1	トルコ	641.5	19.7
エジプト	606.3	21.9	トルコ	686.0	17.4	イラン	626.6	19.2
バングラデシュ	221.6	8.0	バングラデシュ	182.1	4.6	エジプト	501.3	15.4
アゼルバイジャン	128.3	4.6	イラン	176.2	4.5	カザフスタン	217.3	6.7
スーダン	114.3	4.1	アゼルバイジャン	137.6	3.5	アゼルバイジャン	95.4	2.9
イラン	113.0	4.1	スーダン	115.4	2.9	サウジアラビア	90.4	2.8
ナイジェリア	95.8	3.5	ナイジェリア	107.2	2.7	ナイジェリア	75.5	2.3
その他	693.7	25.1	その他	1,741.9	44.2	その他	1,015.8	31.1
計	2,764.3	100.0	計	3,939.9	100.0	計	3,263.8	100.0

資料:現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 4者合意に基づく輸出再開で輸出量は1.0百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく、19.5百万トンの見込み。ロシアの侵攻により、前年度に比べ、収穫面積と単収が減少し、生産量は史上最高だった前年度(33.0百万トン)に比べ40.9%減少する見込み。

ウクライナ気象センター(2022.8.5)によれば、生育状況は、冬小麦は7月上旬におおむね完熟し、その後収穫は完了した。また、春小麦は完熟となり、収穫が進行中である。ウクライナ国家統計局(2022.8.11)によれば、2022/23年度の小麦全体の収穫面積は3.9百万ヘクタールで、収穫量は15.4百万トン、単収は4.01トン/ヘクタール。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、国連、ウクライナ、ロシア、トルコの4者合意を受けた黒海からの輸出再開により、前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、前年度に比べ41.5%減少の11.0百万トンの見込み。

ウクライナ税関統計によれば、7月の小麦輸出量は、41.2万トンで、前年度同時期(96.1万トン)、過去4年平均(108.6万トン)をそれぞれ56.2%、62.1%下回っている。ウクライナ鉄道によれば、7月の穀物全体の鉄道輸送量は146.2万トンで、6月の136.4万トンから9.2%増加した。このうち輸出量は、7月が90.5万トン、6月が80.5万トンであった。

なお、4者合意を受けて、8月1日にはとうもろこし2.7万トンを搭載した船がオデーサ港を出港した。国連共同調整センター(2022.8.27)によれば、8月27日現在、合意に基づく輸出量は104万トンで、そのうち小麦の輸出量は18万トン、仕向地はトルコ等となっている。

USDAによれば、今回の合意に基づく黒海港湾からの輸出再開により、農産物の国際価格の上昇が抑制されることに加え、ウクライナの港湾の輸出滞留により生じる損失が減じられると見ている。

ウクライナでは長期保管に不可欠なエアレーションシステムを備えた穀物エレベーターが多くないことから、港湾に滞留していた穀物の大半が失われる事態が懸念されていた。

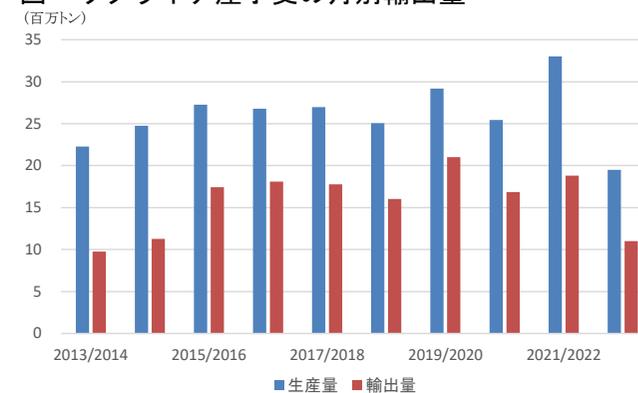
なお、港湾及びその周辺での軍事紛争の継続、港湾及び航路での地雷、機雷の問題、運賃と保険料による物流コストの高止まりが懸念されている。なお、2022年7月22日に合意された協定は、有効期間が120日間で、その後の延長は可能。輸出が再開される港湾はオデーサ港、ユジニ港、チョルノモルシク港の3港とされている。

小麦－ウクライナ (主に冬小麦を栽培)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23(22年7月～23年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	25.4	33.0	19.5 (19.4)	-	▲ 40.9
消費量	8.7	10.0	10.2 (8.3)	-	2.0
うち飼料用	2.6	4.0	5.0 (2.8)	-	25.0
輸出量	16.9	18.8	11.0 (10.0)	1.0	▲ 41.5
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 23.1
期末在庫量	1.5	5.8	4.2 (8.2)	▲ 1.0	▲ 27.4
期末在庫率	5.9%	20.3%	20.0% (44.8%)	▲ 5.9	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.85	7.41	5.25 (5.03)	-	▲ 29.1
単収(t/ha)	3.71	4.45	3.71 (3.86)	-	▲ 16.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022)

図 ウクライナ産小麦の月別輸出量



図：黒海港湾からの輸出経路



2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

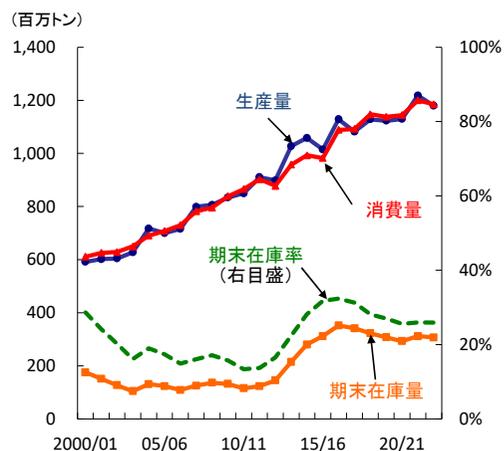
<米国農務省（USDA）の見通し> 2022/23年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・ウクライナ等で上方修正も、EU、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↓
 ・ウクライナ等で上方修正も、EU、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出入量 前年度比 ↓ 前月比 ↑
 ・EU 等で下方修正も、ウクライナ、セルビア等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2022.8.12）をもとに農林水産省にて作成

◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

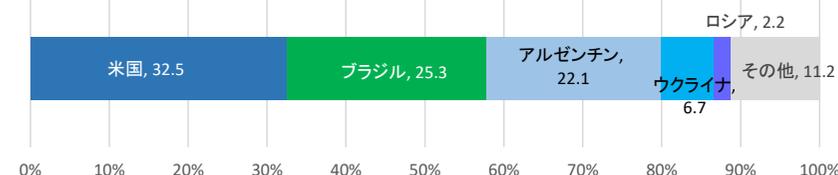
年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,129.4	1,218.8	1,179.6	▲ 6.3	▲ 3.2
消費量	1,144.0	1,199.8	1,184.8	▲ 0.5	▲ 1.3
うち飼料用	724.2	745.9	746.0	▲ 1.2	0.0
輸出入量	182.6	200.4	185.6	3.1	▲ 7.4
輸入量	185.2	178.6	179.8	2.7	0.7
期末在庫量	292.9	311.8	306.7	▲ 6.3	▲ 1.7
期末在庫率	25.6%	26.0%	25.9%	▲ 0.5	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2022）

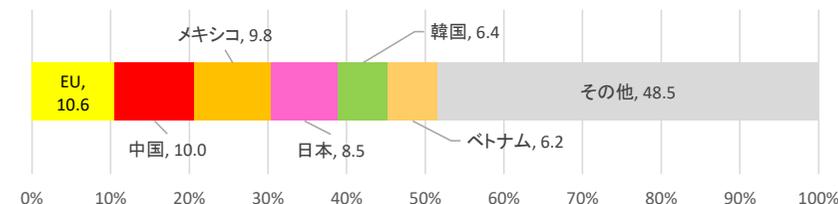
○ 2022/23年度 世界のとうもろこしの生産量(1,179.6百万トン) (単位：%)



○ 2022/23年度 世界のとうもろこしの輸出入量(185.6百万トン) (単位：%)



○ 2022/23年度 世界のとうもろこしの輸入量(179.8百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 生産量は収穫面積・単収減少により減産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、収穫面積の減少に加え、8月の初回の現地調査において、主産地のイリノイ州等では天候に恵まれたが、ノースカロライナ州からコロラド州にかけての南部産地で悪天候により単収が低下したことから前月予測から3.7百万トン下方修正され、前年度より5.0%減の364.7百万トンの見込み。なお、収穫面積の減少は肥料価格高騰の影響から主産州で作付けが肥料の投入量のより少ない大豆等へシフトしたことが要因。

USDA「Crop Progress」(2022.8.22)によれば、主要18州におけるドウ(ミルク状の穀粒が徐々に柔らかい固まりになっていく段階)進捗率は75%と前年度同期(83%)及び過去5年平均(79%)より遅れている。デント(穀粒に窪みができる段階)進捗率は31%と前年度同期(38%)及び過去5年平均(35%)より遅れている。作柄評価は、良からやや良が55%と前年度同期(60%)を下回っている。9月以降、成熟期を迎えるとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、前年度より2.0%減の308.6百万トンの見込み。エタノール用需要が前年度から増加の一方、生産量の減少による国内価格の上昇等から飼料用需要の減少が要因。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、6月の輸出ペースが過去6ヶ月間で最少となること等から、前月予測から0.6百万トン下方修正され、供給量の減少等から、前年度より3.1%減の60.3百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～8月8日)は、39.3百万トンであり、内訳は中国(11.3百万トン)、メキシコ(9.3百万トン)、日本(7.6百万トン)、コロンビア(2.7百万トン)の順である。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、生産量の下方修正により前月予測から2.1百万トン下方修正され、前年度より9.2%減の35.3百万トンの見込み。なお、期末在庫率は9.6%で、前年度より低下し、引き続き低水準の見込み。

とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年9月～23年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	358.5	383.9	364.7	▲ 3.7	▲ 5.0
消費量	306.7	314.9	308.6	▲ 0.5	▲ 2.0
うち飼料用	142.3	142.3	135.3	▲ 0.6	▲ 4.9
エタノール用等	127.8	135.9	136.5	-	0.5
輸出量	69.8	62.2	60.3	▲ 0.6	▲ 3.1
輸入量	0.6	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	31.4	38.9	35.3	▲ 2.1	▲ 9.2
期末在庫率	8.3%	10.3%	9.6%	▲ 0.5	▲ 0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.31	34.56	33.12	▲ 0.04	▲ 4.2
単収(t/ha)	10.76	11.11	11.01	▲ 0.10	▲ 0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2021/22 年度、生産量史上最高、輸出増の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年9月以降作付けが開始される 2022/23 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 8.6% 増の 126.0 百万トンで史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社 (CONAB) 月例報告 (2022.8.11) によれば、2021/22 年度の実収穫が終了した夏とうもろこしの生産量は、2020/21 年度比 1.0% 増の 25.0 百万トンの見込み。

一方、主産地で収穫終盤を迎えた冬とうもろこしの生産量は、生育期にマツト・グロッソ州など中西部の主産地では乾燥が続いたものの、パラナ州など南部産地では良好な天候に恵まれ、大幅な増産となり、干ばつ・霜害で減産となった 2020/21 年度に比べ 43.8% 増の 89.7 百万トンの見込み。

夏作・冬作の合計では 2020/21 年度比 31.7% 増の 114.7 百万トンで史上最高の見込み。
(P.23 大豆—ブラジルのクロープカレンダー参照)。

冬とうもろこしの主産地である中西部のマツト・グロッソ州で8月8日現在、収穫率は100%で収穫終了。南部のパラナ州で8月16日現在、収穫率は79%と、収穫が遅れた前年度同期より40ポイント進んでいる。

【需要状況】USDA によれば、2022/23 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 5.5% 増の 77.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2022/23 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より 5.6% 増の 47.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022 年1～7月の輸出量は 10.4 百万トンで、前年同期 (5.6 百万トン) と比べ 1.8 倍となっている。内訳は、1位がイラン 2.4 百万トン、2位がエジプト 1.6 百万トン、3位が韓国 0.7 百万トン。ロシアのウクライナ侵攻により、ウクライナ産の輸出が影響を受けており、代替としてブラジル産の中東向け輸出が大幅に増加した。

とうもろこし—ブラジル

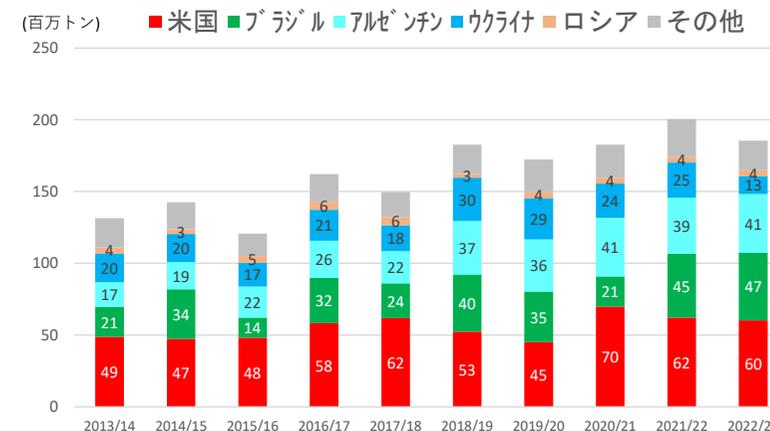
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年3月～24年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	87.0	116.0	126.0 (123.1)	-	8.6
消費量	70.0	73.0	77.0 (78.6)	-	5.5
うち飼料用	59.5	62.0	65.5 (56.5)	-	5.6
輸 出 量	21.0	44.5	47.0 (43.6)	-	5.6
輸 入 量	2.9	2.0	1.3 (0.5)	-	▲ 35.0
期末在庫量	4.2	4.7	8.0 (8.5)	-	71.0
期末在庫率 (参考)	4.6%	4.0%	6.4% (7.0%)	-	2.5
収穫面積(百万ha)	19.90	21.80	22.70 (21.80)	-	4.1
単収(t/ha)	4.37	5.32	5.55 (5.65)	-	4.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2022.8.12) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2021/22 年度、生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、本年9月以降作付けが開始される2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収の増加により、前年度より3.8%増の55.0百万トンで史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報(2022.8.18)によれば、2021/22年度の収穫進捗率は98%で、過去5年平均より4ポイント進んでいる。

【需要状況】USDA によれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より2.2%増の14.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より5.1%増の41.0百万トンと史上最高の見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～6月の輸出量は18.6百万トンで、前年同期(17.5百万トン)より6.3%増。内訳は、1位がベトナム2.5百万トン、2位が韓国2.0百万トン、3位がペルー1.6百万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

2021年12月17日、アルゼンチン農牧漁業大臣がとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。8月中旬現在、とうもろこしの輸出上限数量は2020/21年度4,160万トン、2021/22年度3,600万トンと設定されている。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年3月～24年2月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	52.0	53.0	55.0 (60.6)	-	3.8	
消費量	13.5	13.7	14.0 (21.2)	-	2.2	
うち飼料用	9.5	9.8	10.0 (16.3)	-	2.0	
輸 出 量	40.9	39.0	41.0 (41.0)	-	5.1	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	1.2	1.5	1.5 (2.5)	-	-	
期末在庫率	2.2%	2.8%	2.7% (4.0%)	-	▲ 0.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.55	7.20	7.00 (8.00)	-	▲ 2.8	
単収(t/ha)	7.94	7.36	7.86 (7.58)	-	6.8	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022)

写真: 北部サンタフェ州の次期作付けを待つとうもろこし圃場
(7月31日撮影)

作付け作業は、8月の降雨があれば9月以降に開始予定。



< 中国 > 生産量減少、消費量史上最高、輸入量減少の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、政府補助金による大豆奨励策により作付けが大豆にシフトし、収穫面積が減少することから、前年度より0.6%減の271.0百万トンの見込み。

国家糧油情報センター（2022.8.5）によれば、吉林省中西部、遼寧省北部等の春とうもろこしは7月の降雨過多により、一部の農地が浸水被害に見舞われるなど、影響が懸念される。8月上旬時点で、おおむねシルキング期にある。一方、河南省等の夏とうもろこしは、天候や土壌水分に恵まれ、生育も良好である。節間伸長期からシルキング期にある。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より1.4%増の295.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、主要な輸入先であるウクライナの輸出減少に伴い、前年度より21.7%減の18.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～6月の輸入量は13.6百万トンで、前年同期比で11.2%減。内訳は、米国産8.4百万トン（62%）、ウクライナ産4.9百万トン（36%）。5月以降、前年同月に比べウクライナ産の輸入が大幅に減少している。（右図参照）

5月23日には、中国政府は、ブラジル産とうもろこしについても検疫問題をクリアし輸入の合意に至ったと公表した。しかし、遺伝子組み換えの承認手続き等に相当時間を要するとみられ、当面は米国産を手当てしている模様である。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年6月号」によると、6月の国内流通価格は、2,880元/トンと前月（2,940元/トン）から下落した。主な要因は、一部取引業者が冬小麦の仕入れのため、とうもろこし在庫を放出し、市場の供給が十分にあったこと。また、政府の備蓄用長期保存粳が継続的により安価で競売にかけられ、とうもろこしの飼料用消費がコメに代替されたためである。また、6月の輸入価格は、3,140元/トンと前月（3,280元/トン）から下落したものの、依然として国内価格を上回り内外価格差は大きい。他の穀物の代替輸入等も含め、今後の中国の輸入動向に注視が必要。

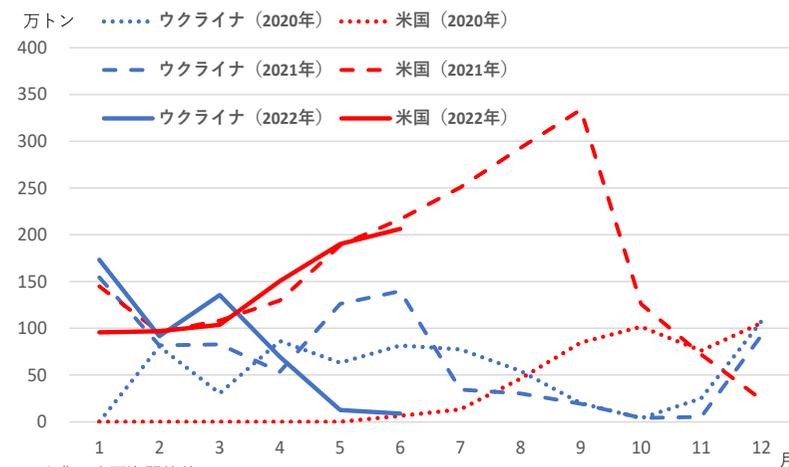
とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.7	272.6	271.0 (273.0)	-	▲ 0.6
消費量	285.0	291.0	295.0 (305.2)	-	1.4
うち飼料用	203.0	209.0	214.0 (203.0)	-	2.4
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸入量	29.5	23.0	18.0 (19.0)	-	▲ 21.7
期末在庫量	205.7	210.2	204.2 (175.0)	-	▲ 2.9
期末在庫率	72.2%	72.2%	69.2% (57.3%)	-	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.26	43.32	43.00 (42.50)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	6.32	6.29	6.30 (6.42)	-	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC「Grain Market Report」(21 July 2022)

図：中国におけるウクライナ、米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< ウクライナ > 4者合意に基づく輸出再開で輸出量は3.5百万トンの上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、西部、南部で乾燥傾向も、主要生産地の北部、中部で適度な降雨と高温の日が少なかったことから単収の上方修正により前月予測から5.0百万トン上方修正された。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、燃料や肥料等の生産資材不足もあり、史上最高の生産量となった前年度より28.8%減の30.0百万トンの見込み。

ウクライナ気象センター(2022.8.5)によれば、7月上旬はほぼ降雨がなかったものの、中旬以降に降雨があり、土壌水分が改善された。7月末現在、西部や中央部の一部で土壌水分は不足気味となっている。生育状況は、おおむね開花期を迎えており、一部で乳熟期となっている。作柄は、おおむね良好であるが、一部で降雨不足による葉の変色や虫害、病害が発生している。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、生産量の減少に伴い、前年度より4.1%減の11.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、国連、ウクライナ、ロシア、トルコの4者合意による黒海の港湾からの輸出再開から、前月予測から3.5百万トン上方修正されたものの、前年度より49.0%減の12.5百万トンの見込み。

8月10日付けウクライナ農業政策食料省発表によれば、7月の輸出量は110万トンで、前月(101.5万トン)に比べ8%増加。

なお、輸出再開を受けて8月1日にはとうもろこし2.7万トンを搭載した船がオデーサ港を出港した。国連共同調整センター(2022.8.27)によれば、8月27日現在、黒海港湾からのとうもろこし輸出量は66万トン、輸出先国は、トルコ、韓国、イラン等である。

USDAによれば、EUは高温・乾燥の影響により生産量が減少する可能性があるため、地理的に近接するウクライナからとうもろこしを輸入するとみられている。

また、2022/23年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より92.5%増の12.1百万トンの見込みで、在庫が積み上がっている。

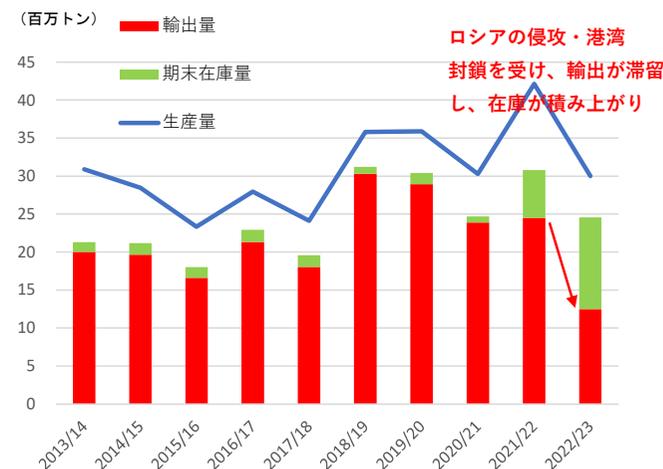
とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	30.3	42.1	30.0 (25.1)	5.0	▲ 28.8	
消費量	7.1	12.2	11.7 (10.7)	1.0	▲ 4.1	
うち飼料用	5.9	11.0	10.5 (5.5)	1.0	▲ 4.5	
輸出量	23.9	24.5	12.5 (12.0)	3.5	▲ 49.0	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 100.0	
期末在庫量	0.8	6.3	12.1 (9.3)	-	92.5	
期末在庫率	2.7%	17.1%	49.9% (41.2%)	▲ 11.4	32.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.40	5.49	4.50 (4.59)	-	▲ 18.0	
単収(t/ha)	5.62	7.68	6.67 (5.47)	1.11	▲ 13.2	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC「Grain Market Report」(21 July 2022)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

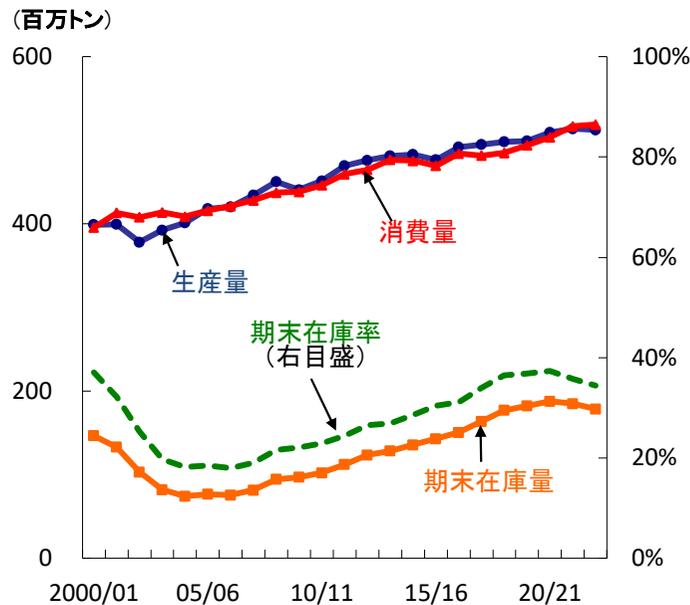


資料：USDA「PS&D」(2022.8.12)をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

＜米国農務省 (USDA) の見通し＞		2022/23 年度	
生産量	前年度比 ↓	前月比 ↓	
・インド等で下方修正され、前月から下方修正された。			
消費量	前年度比 ↑	前月比 ↑	
・インドネシア等で下方修正されたものの、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。			
輸出量	前年度比 ↑	前月比 ↑	
・ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。			
期末在庫量	前年度比 ↓	前月比 ↓	



資料：USDA「PS&D」(2022. 8. 12)をもとに農林水産省にて作成

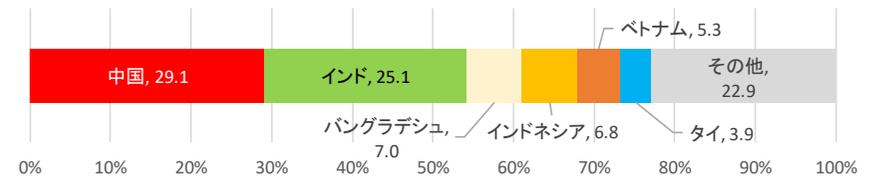
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

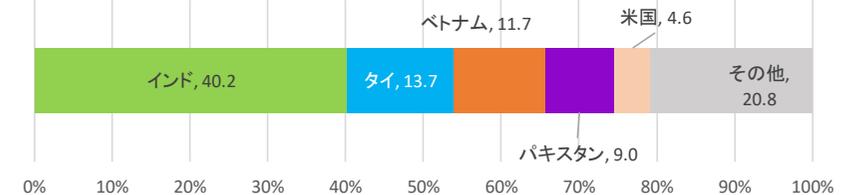
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	509.3	513.7	512.4	▲ 2.3	▲ 0.2
消 費 量	503.6	516.7	518.7	0.1	0.4
輸 出 量	50.9	54.6	54.7	0.1	0.1
輸 入 量	46.5	53.6	53.1	▲ 0.0	▲ 1.0
期末在庫量	187.9	184.8	178.5	▲ 4.2	▲ 3.4
期末在庫率	37.3%	35.8%	34.4%	▲ 0.8	▲ 1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2022)

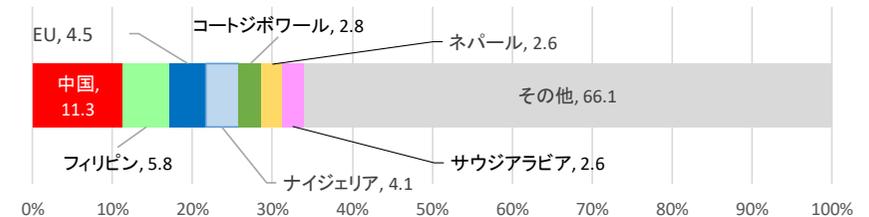
○ 2022/23年度 世界のコメの生産量(512.4百万トン) (単位：%)



○ 2022/23年度 世界のコメの輸出量(54.7百万トン) (単位：%)



○ 2022/23年度 世界のコメの輸入量(53.1百万トン) (単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 中・短粒種は1985/86年度以来の歴史的低水準の生産量に

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、単収のわずかな引き上げにより前月予測から0.1百万トン上方修正されたものの、対前年度比8.2%減の5.6百万トンと、1996/97年度以来の低水準の見込み。収穫面積は、厳しい干ばつによる灌漑用水不足で、特にカリフォルニア州（中・短粒種の国内生産の75%を占める）で2年連続減少し、1958/59年度以来の低水準となった。一方ミシシッピ下流域では、農業資材の高騰に比べ米価の上昇幅が少ないこと、大豆やとうもろこしの収益性の方が高いことから主産地のアーカンソー州等で収穫面積が減少した。

同「Crop Progress」(2022.8.22)によると、主要6州における出穂率は93%と、前年同期(92%)を上回り、過去5年平均と同水準。作柄評価は、やや良から良が72%と、前年同期(77%)を下回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はないものの、供給量の減少等から対前年度比2.5%減の4.6百万トンの見込み。

2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比13.2%増の1.4百万トンと、史上最高の見込み。また、消費に占める割合は30%と、史上最高となる見込み。なおカリフォルニア州の中・短粒種の生産が大幅に減少するとの予測から、中・短粒種の輸入量は、タイ、中国（米領プエルトリコ向けを含む）等に加え、豪州産の輸入により、対前年度比43%増の0.5百万トンとなる見込み。

2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.3%減の2.5百万トンと、1996/97年度以来の低水準の見込み。これはアジア産や南米産より価格競争力が低いため。

同「Rice Outlook」(2022.8.16)によれば、長粒種の価格はここ数か月間上昇しており、8月9日までの週のイラク向け長粒種（2等、碎米4%混入）は710ドル/トンと、2008年10月以来の高値となった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。また中・短粒種の価格は、8月9日までの週の地中海向けカリフォルニア米（1等、碎米4%混入）で1,550ドル/トンと、過去最高を更新した。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約2割

(単位：百万精米トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年8月～23年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.2	6.1	5.6	0.1	▲ 8.2
消費量	4.9	4.7	4.6	-	▲ 2.5
輸出量	3.0	2.7	2.5	-	▲ 5.3
輸入量	1.1	1.2	1.4	-	▲ 13.2
期末在庫量	1.4	1.3	1.2	0.0	▲ 12.1
期末在庫率	17.8%	17.9%	16.3%	0.4	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.21	1.01	0.93	-	▲ 7.9
単収(もみt/ha)	8.54	8.64	8.55	0.07	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)

図：米国の長粒種と中・短粒種の価格の推移

(単位：ドル/トン)



資料：USDA「Rice Outlook」(2022.8.12)より。価格は年度内の平均価格。
なお、2022/23年度は8月の価格。

< インド > 作付面積減少により 2015/16 年以來初の減産に

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測から2.0百万トン下方修正され、対前年度比0.9%減の128.5百万トンとなる見込み。主産地のウッタル・プラデーシュ州等北東部で降雨が不十分だったことから、カリフ米の作付面積が減少した。2015/16年度以来、増産が続いていたものの、2022/23年度は減産となる見込み。ただし、依然として前年度に次ぐ史上第2位の水準となる見込み。

インド農業農民福祉省(2022.8.12)によると、カリフ米作付済面積は、8月12日時点で30.97百万ヘクタールと、前年同期(35.36百万ヘクタール)に比べて4.38百万ヘクタール少なくなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.8%減の107.5百万トンの見込み。

2021/22年度の消費量は、政府が低所得世帯向け食料配給プログラム等で、コメの配給量を増加させたことから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、対2020/21年度比7.0%増の108.4百万トンとなった。

USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、十分な輸出余力や価格競争力から、22.0百万トンと、前年度を1.1%上回り、史上最高となる見込み。なお、世界の輸出量の4割を占める。

同「Rice Outlook」(2022.8.16)によると、2021/22年度のコメ輸出量は、豊富な供給量と価格競争力から、特にバングラデシュ、ベトナム向けの輸出増加により前月から0.3百万トン上方修正され、21.8百万トンと、過去最高の見込み。

USDAによると2022/23年度の期末在庫量は、期首在庫量及び生産量の下方修正に伴い、前月予測から3.7百万トン下方修正され、対前年度比2.7%減の35.5百万トンとなる見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2022.8.12)によれば、インド産米(碎米5%混入)の8月の価格は、355ドル/トンに上昇したものの、依然としてアジアの主要輸出国の中で最も低い価格となっている(P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月~23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.4	129.7	128.5 (131.0)	▲ 2.0	▲ 0.9
消費量	101.1	108.4	107.5 (109.0)	-	▲ 0.8
輸出量	20.2	21.8	22.0 (19.7)	-	1.1
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	37.0	36.5	35.5 (39.2)	▲ 3.7	▲ 2.7
期末在庫率	30.5%	28.0%	27.4% (30.5%)	▲ 2.9	▲ 0.6

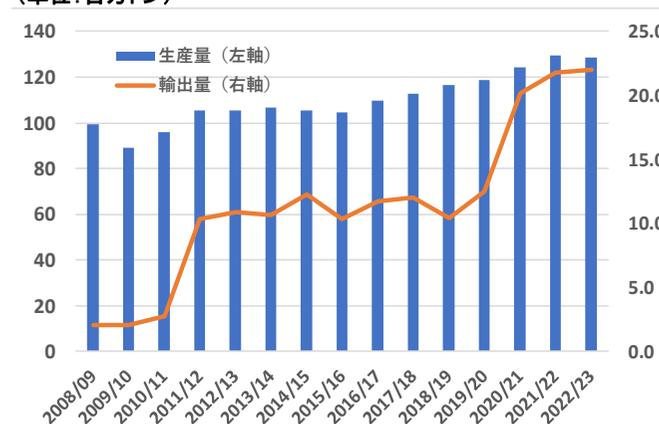
(参考)

収穫面積(百万ha)	45.77	47.00	46.00 (46.75)	▲ 1.00	▲ 2.1
単収(もみt/ha)	4.08	4.14	4.19 (2.80)	0.02	1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC「Grain Market Report」(21 July 2022) (単収は精米t/ha)

図: インドのコメ生産量と輸出量の推移

(単位:百万トン)



資料: USDA「PS&D」(2022.8.12)をもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2022 年上半期の輸入量はインド産砕米を中心に対前年同期比 4 割増

【生育・生産動向】USDA によれば、2022/23 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度をわずかに上回って 149.0 百万トンと、史上最高の見込み。

国家糧油情報センター（2022.8.5）によると、7 月末、全国の早稲の収穫は基本的に終了した。また、今年の早稲の作付面積は着実に増加し、豊作が期待される。二期作晩稲の播種は順調に進んでおり、7 月末現在、播種率は 8 割近くで、苗の状態も良好である。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2022.8.16) によると、東部地域の大部分で豪雨があり、一部で洪水等があったものの、土壌水分は良好となった。一方、南部で高温・乾燥となっており、生育への影響が懸念されている。

なお、報道によると、南部の干ばつに関し、中国政府は 24 日の常務会議で 100 億元（日本円でおおよそ 2000 億円）の対策を決定した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2022/23 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.2%増の 156.6 百万トンと、史上最高の見込み。

2022/23 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.7%増の 6.0 百万トンと史上最高の見込み。とうもろこしなど飼料用穀物の価格高騰を背景に、飼料用等として低価格の砕米をインドやパキスタン等から引き続き輸入している。

中国海関統計によれば、2022 年上半期（1～6 月）の輸入量は、対前年同期の 2.5 百万トンから約 41%増加し、3.6 百万トンとなった。輸入先はインドが 1.2 百万トンと最も多く、次いでパキスタンが 0.9 百万トンとなっている。

USDA によれば、2022/23 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、需要量が供給量を上回ることから、対前年度比 3.5%減の 109.0 百万トンとなる見込み。なお、世界の期末在庫量のうち、中国が 6 割弱を占める見通し。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは 3 割程度

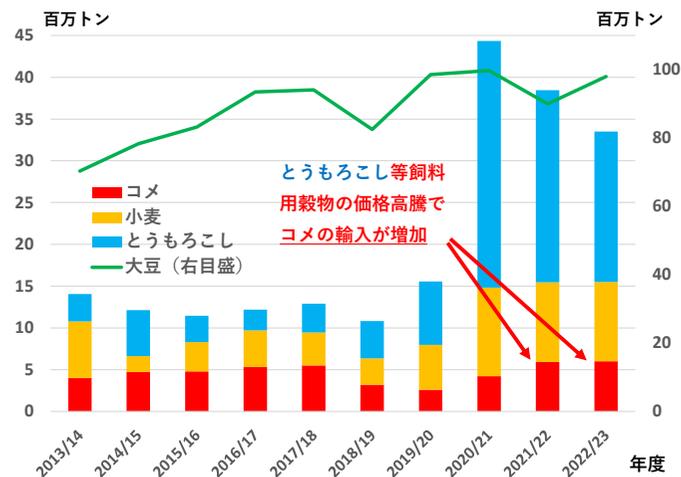
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年 7月～23年 6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	148.3	149.0	149.0 (149.0)	-	0.0	
消費量	150.3	156.3	156.6 (153.4)	-	0.2	
輸出量	2.2	2.1	2.4 (2.4)	-	14.3	
輸入量	4.2	5.9	6.0 (5.0)	-	1.7	
期末在庫量	116.5	113.0	109.0 (105.6)	-	▲ 3.5	
期末在庫率	76.4%	71.3%	68.6% (67.8%)	-	▲ 2.8	

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.08	29.92	30.00 (30.03)	-	0.3
単収(もみt/ha)	7.04	7.11	7.10 (4.96)	-	▲ 0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022) (単収は精米t/ha)

図：中国のコメ、小麦、とうもろこし、大豆の輸入量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2022.8.12)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > 2022 年上半期の輸出量が対前年同期比 6 割増

【生育・生産動向】USDA によれば、2022/23 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.8%増の 19.8 百万トンの見込み。

2021/22 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、対 2020/21 年度比 4.2%増の 19.7 百万トンの見込み。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2022.8.23) によると、全土でモンスーンによる降雨が続いており、雨季米の生育のための土壌水分量は十分と見られる。また、乾季作に向けて灌漑用水の補給となった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2022/23 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、対前年度比 4.2%増の 7.5 百万トンの見込み。インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。

2021/22 年度の輸出量は、特にイラク向け輸出の増加により、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、対前年度比 18.8%増の 7.2 百万トンと、タイ政府が設定している 7 百万トン超の輸出目標を達成した。

タイ米輸出業者協会によれば、2022 年上半期(1~6 月)の輸出量は、対前年同期の 2.2 百万トンから約 59%増加し、3.5 百万トンとなった。輸出先はイラクが 0.7 百万トン(対前年度比 5.3 倍)、米国が 0.4 百万トン(対前年度比 1.6 倍)、南アフリカが 0.3 百万トン(対前年度比 1.1 倍)、中国が 0.3 百万トン(対前年度比 1.9 倍)。

USDA 「Rice Outlook」(2022.8.16) によれば、8 月 9 日までの週のタイ産米(長粒、2 等精米)の輸出価格は、乾季作米の新穀の供給継続と雨季作早稲の出回りにより、7 月 5 日までの週の価格から 12 ドル下落し、416 ドル/トンとなった(P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。



写真：タイ中部ナコンパトム県の圃場
(8 月 6 日撮影)

コメータイ

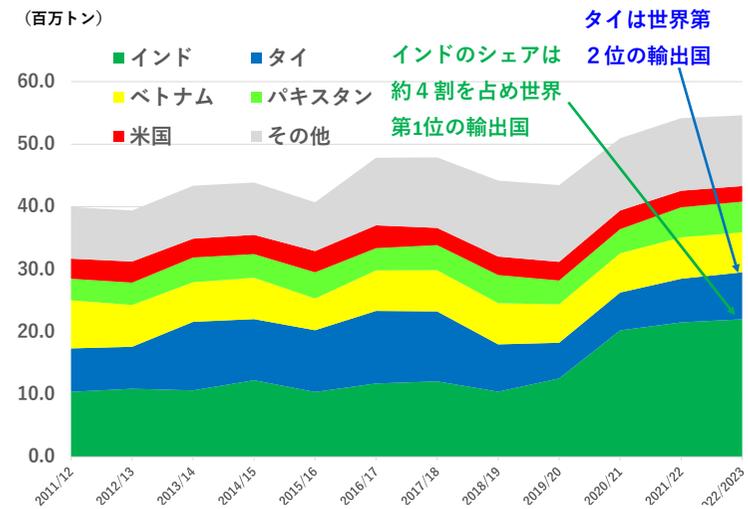
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年 1 月～23年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	18.9	19.7	19.8 (20.0)	-	0.8	
消 費 量	12.7	13.0	13.1 (12.3)	-	0.8	
輸 出 量	6.1	7.2	7.5 (8.0)	-	4.2	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.3	3.9	3.3 (6.9)	▲ 0.2	▲ 15.3	
期末在庫率	22.8%	19.5%	16.2% (34.3%)	▲ 1.0	▲ 3.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.51	10.59	10.70 (10.70)	-	1.0	
単収(もみt/ha)	2.72	2.81	2.80 (1.87)	-	▲ 0.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC 「Grain Market Report」(21 July 2022) (単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2022. 8. 12)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2021/22 年度の冬春作が低温等により減産

【生育・生産動向】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が6.01トン/ヘクタールと過去最高になることから、対前年度比1.2%増の27.4百万トンの見込み。

2021/22年度の生産量は、単収・収穫面積ともわずかに減少見込みであること、低温や高収益作物（野菜等）への転作等により冬春作の収穫が減少したことから、前月予測から0.3百万トン下方修正され、対2020/21年度比1.1%減の27.1百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の6.4百万トンの見込み。

2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対2020/21年度比4.8%増の6.6百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2022年上半期（1～6月）の輸出量は3.5百万トンで、上位からフィリピン（1.6百万トン）、中国（0.4百万トン）、コートジボワール（0.3百万トン）となっている。うちジャポニカ米は0.1百万トン。

USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比33.3%減の0.8百万トンの見込み。

なお2021/22年度の輸入量は、生産量の方修正に加え、インドからの砕米輸入が増加する見込みから、前月予測から0.1百万トン上方修正され1.2百万トンの見込み。

USDA「Rice Outlook」（2022.8.16）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%砕米混入）の8月9日までの週の価格は、フィリピンからの引き合いが弱く、7月12日までの週の価格から15ドル/トン下落して395ドル/トンとなった。



写真：ベトナム北部ハノイ市の圃場
（8月7日撮影）

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

（単位：百万精米トン）

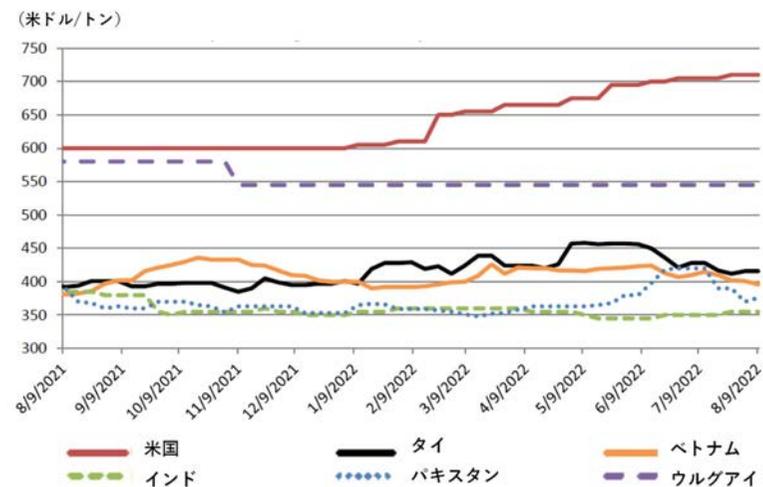
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (23年1月～23年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	27.4	27.1	27.4 (28.9)	-	1.2	
消費量	21.5	21.5	21.7 (23.4)	-	0.9	
輸出量	6.3	6.6	6.4 (6.5)	-	▲ 3.0	
輸入量	1.8	1.2	0.8 (0.9)	-	▲ 33.3	
期末在庫量	2.6	2.8	2.9 (3.0)	▲ 0.2	3.6	
期末在庫率	9.5%	10.0%	10.4% (10.0%)	▲ 0.6	0.4	

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.31	7.29	7.29 (7.28)	-	-
単収(もみt/ha)	6.00	5.95	6.01 (3.98)	-	1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC「Grain Market Report」(21 July 2022)（単収は精米t/ha）

図：長粒種のFOB価格の推移



資料：USDA「Grain：World Markets and Trade」(2022.8.12)より。

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2022/23 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・EU 等で下方修正も、中国、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

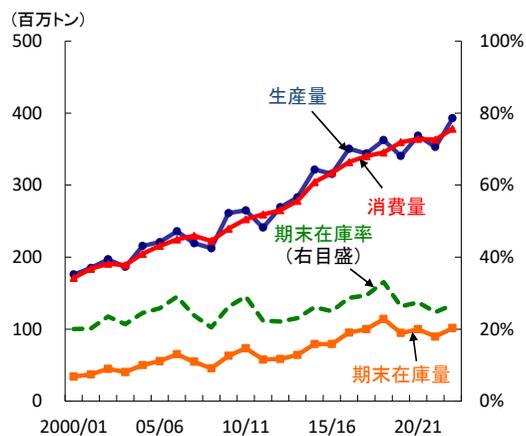
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・EU 等で下方修正も、ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・アルゼンチン等で下方修正も、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2022.8.12)をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

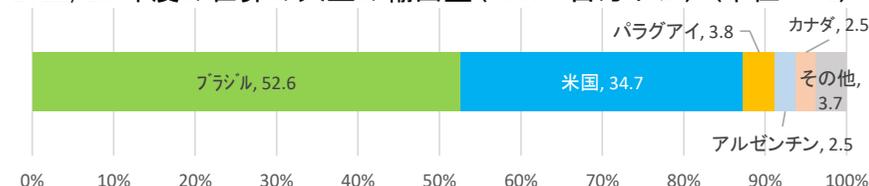
年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	368.4	352.7	392.8	1.4	11.4
消費量	364.0	363.0	378.3	0.5	4.2
うち搾油用	315.4	313.8	327.8	0.6	4.5
輸出量	164.7	153.3	169.1	0.2	10.3
輸入量	165.5	153.4	166.2	0.1	8.4
期末在庫量	99.9	89.7	101.4	1.8	13.0
期末在庫率	27.4%	24.7%	26.8%	0.4	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2022)

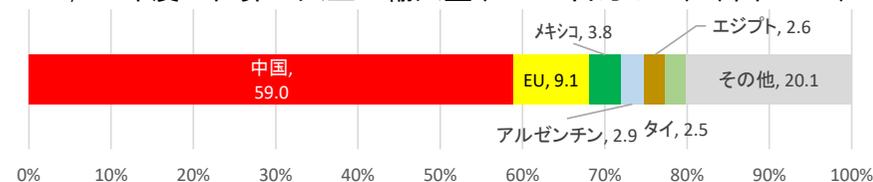
○ 2022/23 年度の世界の大豆の生産量 (392.8 百万トン) (単位：%)



○ 2022/23 年度の世界の大豆の輸出量 (169.1 百万トン) (単位：%)



○ 2022/23 年度の世界の大豆の輸入量 (166.2 百万トン) (単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 単収の上方修正により、生産量は史上最高、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の実産量は、前月予測から0.7百万トン上方修正され、対前年度比2.1%増の123.3百万トンと史上最高の見通し。8月の初回の現地調査で収穫面積は下方修正されたものの、イリノイ州やミネソタ州等で単収が大幅に増加することと等から単収が上方修正されたことが要因。なお、収穫面積は、前月予測より下方修正されたものの、肥料価格高騰によるとうもろこしからの作付けのシフトを背景に前年度より増加している。

USDA「Crop Progress」(2022.8.22)によれば、主要18州における着莢進捗率は84%と、前年度同期(87%)及び過去5年平均(86%)より遅れている。作柄評価は良からやや良が57%と前年度同期(56%)を上回っている。南部の州では7月を通じた高温により遅れていた生育が進展したが、生産量上位4州(アイオワ、イリノイ、インディアナ、ミネソタ)では、過去の平均より遅れている。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の実消費量は、前月予測からほとんど変更なく、前年度より2.1%増の64.5百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の実輸出量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、前年度より0.2%減の58.7百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～8月8日)は、23.6百万トンであり、内訳は中国(9.4百万トン)、メキシコ(3.0百万トン)、エジプト(2.4百万トン)、ドイツ(1.3百万トン)、日本(1.3百万トン)の順。

USDAによれば、2022/23年度の期末在庫量は、生産量の上方修正と前年度の輸出量の下方修正により、前月予測から0.4百万トン上方修正され、前年度より8.6%増の6.7百万トンの見込み。なお、期末在庫率は5.4%で、前年度を上回るものの、依然として低水準の見込み。

大豆－米国

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年9月～23年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	114.8	120.7	123.3	0.7	2.1
消費量	60.9	63.2	64.5	0.0	2.1
うち搾油用	58.3	60.0	61.1	-	1.8
輸出量	61.7	58.8	58.7	0.5	▲0.2
輸入量	0.5	0.4	0.4	-	-
期末在庫量	7.0	6.1	6.7	0.4	8.6
期末在庫率	5.7%	5.0%	5.4%	0.3	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.43	34.94	35.29	▲0.12	1.0
単収(t/ha)	3.43	3.45	3.49	0.03	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2021/22年度は高温・乾燥の影響で減産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、本年10月以降に作付けが開始される2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加から、前年度より18.3%増の149.0百万トンと史上最高の見込み。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2022.8.11)によれば、2021/22年度の実生産量は、南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け、2020/21年度より10.2%減の124.0百万トンの見込み。収穫作業は6月に終了している。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、旺盛な搾油用需要により前月予測から0.8百万トン上方修正され、前年度より0.7%増の53.6百万トンと史上最高の見込み。なお、2021/22年度の消費量は、旺盛な搾油用需要により前月予測から0.8百万トン上方修正され、2020/21年度より6.8%増の53.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より11.3%増の89.0百万トンと史上最高の見込み。なお、2021/22年度の輸出量は、輸出ペースの減速により前月予測から1.0百万トン下方修正され、2020/21年度より2.0%減の80.0百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～7月の輸出量は60.5百万トンで、前年同期(66.2百万トン)に比べ8.6%減となっている。内訳は、1位が中国40.4百万トン、2位がスペイン2.7百万トン、3位がタイ1.8百万トンとなっている。なお、7月の輸出量は7.5百万トンで前年同月(8.7百万トン)と比べ、13.3%減となっている。

大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	139.5	126.0	149.0 (143.0)	-	18.3	
消費量	49.9	53.3	53.6 (51.0)	0.8	0.7	
うち搾油用	46.7	50.0	50.3 (48.2)	0.8	0.5	
輸 出 量	81.7	80.0	89.0 (88.8)	-	11.3	
輸 入 量	1.0	0.6	0.8 (0.2)	-	36.4	
期末在庫量	29.4	22.7	29.9 (5.6)	▲ 0.5	31.5	
期末在庫率	22.4%	17.0%	20.9% (4.0%)	▲ 0.5	3.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	39.20	41.00	42.00 (41.70)	-	2.4	
単収(t/ha)	3.56	3.07	3.55 (3.43)	-	15.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC「Grain Market Report」(21 July 2022)

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2021/22年度	2021年												2022年																	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月									
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等						作付 4.5(百万ha)						収穫 25.0(百万t)									→ 収穫夏冬計 114.7百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 21.6百万ha ←												作付 17.0(百万ha)									収穫 89.7(百万t)								
大豆	マツ・グロソ州、パラナ州等						作付 41.0(百万ha)						収穫 124.0(百万t)									↑ 大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種								

資料：CONAB穀物レポート(2022.8.11)

< アルゼンチン > 2021/22 年度は高温・乾燥で減産見通し、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、本年11月以降作付けが開始される2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加から、高温・乾燥の影響を受けた前年度より15.9%増の51.0百万トンと史上最高の見込み。なお、2021/22年度の実績は、生育期の高温・乾燥の影響で、2020/21年度より4.8%減の44.0百万トンの見込み。

6月末までに2021/22年度の実績はほぼ終了した。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の実績は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、前年度より1.0%増の48.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の実績は、増産が見込まれる米国産との輸出競争により前月予測から0.4百万トン下方修正されたものの、生産量の増加に伴い、前年度より1.9倍の4.3百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1～6月の輸出量は52.2万トンで、前年同期(188.1万トン)より72.3%減。内訳は、1位が中国33.4万トン、2位が米国4.1万トン、3位がチリ2.4万トンとなっている。

アルゼンチンは、丸大豆より搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%に設定。さらに、2022年3月19日付けアルゼンチン農牧漁業省プレスリリースによれば、大豆油及び大豆粕の輸出税について2022年末まで2%引き上げ、大豆と横並びの33%に変更した。

大豆—アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	46.2	44.0	51.0 (48.0)	-	15.9
消費量	47.4	47.8	48.3 (48.1)	-	1.0
うち搾油用	40.2	40.6	41.0 (42.1)	-	1.1
輸 出 量	5.2	2.3	4.3 (4.6)	▲ 0.4	91.1
輸 入 量	4.8	3.4	4.8 (4.8)	-	41.2
期末在庫量	25.1	22.5	25.7 (2.6)	0.8	14.5
期末在庫率	47.6%	44.9%	48.9% (4.8%)	1.8	4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.47	16.00	17.00 (16.65)	-	6.3
単収(t/ha)	2.81	2.75	3.00 (2.88)	-	9.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 August 2022)

IGC「Grain Market Report」(21 July 2022)

写真：北部サンタフェ州の大豆の保管風景 (7月31日撮影)

大豆の収穫中に貯蔵施設の容量に達したため、サイロバッグ
(貯蔵容量250トン、長さ75メートル)を多く並べ、一時保管。



< 中国 > 増産見通し、消費量・輸入量も増加見通し

【生産・生育状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測から収穫面積が上方修正されたことから0.9百万トン上方修正され、政府の補助金による大豆生産奨励策で収穫面積が増加したことから、前年度より12.2%増の18.4百万トンの見込み。

国家糧油情報センター（2022.8.5）によれば、8月の中国東北地区の降水量は前年同期より多く、大豆の作柄は前年並みまたはやや良好となっている。遼寧省西部、内モンゴル自治区東南部、吉林省南西部等の干ばつが発生しやすい地区や丘陵地帯の作柄も好転している。ただ、吉林省中西部、遼寧省北部等では降雨過多により、一部の農地は浸水被害に見舞われ、影響が懸念される。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内大豆粕需要の回復による搾油用消費量の増加から、前年度より8.3%増の115.6百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より8.9%増の98.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2022年1～6月の輸入量は46.3百万トンと、前年同期比で5.4%減。内訳は、ブラジル産27.7百万トン（60%）、米国産17.6百万トン（38%）。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2022年6月号」によると、6月は、農家の大豆在庫が底を突いているものの、国内消費もオフシーズンに入っていたため、国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月から横ばいの6,500元/トンとなったが、依然として高水準で推移している。主産地における農家の在庫は底を打ち、今後、新穀大豆が市場に出荷されるまで、国内価格は高値を維持するとみられる。6月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、5,500元/トンと前月（5,400元/トン）から上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

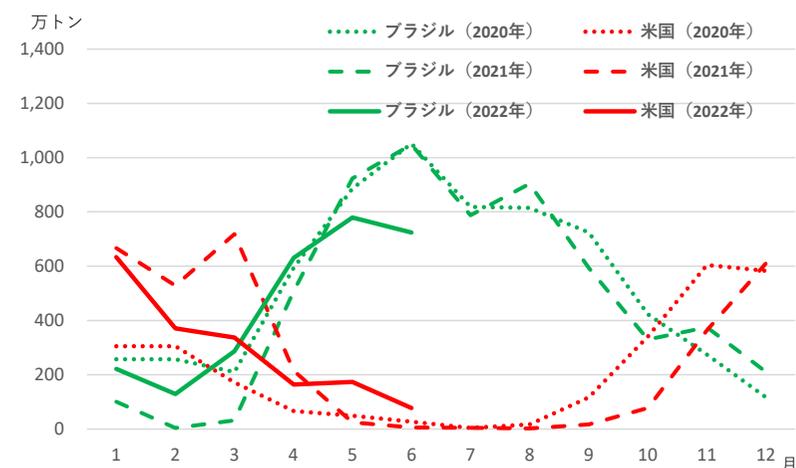
大豆—中国

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年10月～23年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	19.6	16.4	18.4 (19.5)	0.9	12.2	
消費量	112.7	106.7	115.6 (114.3)	-	8.3	
うち搾油用	93.0	87.0	95.0 (95.6)	-	9.2	
輸出量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
輸入量	99.8	90.0	98.0 (96.8)	-	8.9	
期末在庫量	31.2	30.7	31.5 (31.9)	0.9	2.3	
期末在庫率	27.6%	28.8%	27.2% (27.8%)	0.8	▲1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.88	8.40	9.35 (9.90)	0.45	11.3	
単収(t/ha)	1.98	1.95	1.97 (1.97)	-	1.0	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2022)
IGC「Grain Market Report」(21 July 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 収穫面積・単収の減少により減産も、輸出量は増加見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の減少から、前年度より4.3%減の6.0百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2022.8.16)によれば、主産地のカナダ南東部では、8月上旬に降雨があったものの、再び乾燥天候が戻り、生育・充実には土壌水分が必要。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.8.22)によれば、2022/23年度の生産量は、マニトバ州などカナダ西部での作付面積の減少の一方、前年度から回復する過去5年平均単収を前提とすれば、前年度より1.2%増の6.4百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2022/23年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.2%減の2.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.4%増の4.3百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～2022年6月の輸出量は281.2万トンで、国別では、イラン(53.7万トン)、イタリア(39.2万トン)、バングラデシュ(26.2万トン)、オランダ(22.6万トン)、中国(22.2万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位：百万トン)

年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (22年8月～23年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.4	6.3	6.0 (6.4)	-	▲ 4.3
消費量	2.7	2.4	2.3 (2.4)	-	▲ 5.2
うち搾油用	1.6	1.9	1.8 (1.9)	-	▲ 5.4
輸出量	4.5	4.2	4.3 (4.3)	-	▲ 2.4
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.4)	-	▲ 2.0
期末在庫量	0.3	0.4	0.3 (0.5)	-	▲ 28.0
期末在庫率	4.1%	6.4%	4.7% (7.5%)	-	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.04	2.13	2.10 (2.13)	-	▲ 1.4
単収(t/ha)	3.12	2.94	2.86 (2.98)	-	▲ 2.7

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 August 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(22 August 2022)

写真：カナダ平原部マニトバ州の大豆の生育風景 (8月12日撮影)



(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2022/23年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	22年6月～23年5月	22年9月～23年8月	22年8月～23年7月	22年9月～23年8月
カナダ	22年8月～23年7月			22年8月～23年7月
豪州	22年10月～23年9月		23年3月～24年2月	
EU	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		
中国	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月
ロシア	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		22年9月～23年8月
ウクライナ	22年7月～23年6月	22年10月～23年9月		
ブラジル		23年3月～24年2月	23年4月～24年3月	22年10月～23年9月
アルゼンチン	22年12月～23年11月	23年3月～24年2月		22年10月～23年9月
タイ			23年1月～12月	
インド	22年4月～23年3月		22年10月～23年9月	
ベトナム			23年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2022/23年度は、米国の小麦では2022年6月～2023年5月、ブラジルのとうもろこしでは2023年3月～2024年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.040469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラック)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			